

第 20 回 東日本大震災支援全国ネットワーク 世話団体会 議事録

1. 開催年月日：2013年3月5日（火）
2. 開催場所：日本 NPO センター 会議室
3. 出席者：総数 8 名（事務局を除く）

◇ 出席代表世話人（3名）

栗田暢之 NPO 法人 レスキューストックヤード
田尻佳史 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
山崎美貴子 「広がれボランティアの輪」連絡会議

◇ 出席世話団体（5名）

池本修悟 NPO 法人 NPO 事業サポートセンター
田島誠 認定 NPO 法人 国際協力 NGO センター
阿部陽一郎 社会福祉法人 中央共同募金会
福田信章 東京災害ボランティアネットワーク
小野寺正人 公益社団法人 日本青年会議所

◆ 欠席世話団体（5団体）

NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
公益財団法人 日本財団
日本生活協同組合連合会
日本赤十字社
公益財団法人 日本 YMCA 同盟

4. 議事

【議題 1】報告事項

若手会議 in 岩手について

2月25日に岩手の大船渡にて若手を取り上げた会議を開催した。テーマ1の方では学生をメインに、特に学生が卒業した後の支援への関わり方を議論した。岩手県出身の方を中心に、県外から支援で入ってきた方、岩手に何らかの縁が

あって支援してみようと思った方など、様々な方にご発言をいただいた。テーマ 2 ではその上の世代の方が、特に職業として復興というものに関わっていらっしゃる方々にご発言をいただいた。参加者は二十代、三十代を中心に全体で 80 名程度。

今回は、「若手」を前面に出したが、若手は、岩手に限らず宮城にも福島にも多くいらっしゃる。若手という切り口にしたグループやネットワークは、被災地でも少しずつだが存在する。彼らが一同に会し、そのネットワーク同士がつながる機会は少ない。今回これを機にいろいろな方々が知り合い、何か一緒にやっという話が出てくることを期待する。

今回は JCN が主催したが、若手として復興に関わっている方の多くが企画の段階から参加していただいて、岩手県内で一緒に、団体の垣根を越えて作り上げていったというところは大きな成果と考えている。

連携復興センターとの情報交換会について

2月18日に、岩手、宮城、福島連携復興センター、JCNの四者間での情報交換会を実施した。四者の共通課題は、各々の活動をわかりやすいアウトプットへの意識が少ないこと、具体的な組織運営のための計画やスケジュールなど、についてお互いが深く理解できない状況あること、代表者どうしの話し合いは持たれていたが、スタッフレベルでの交流は非常に少なかったことの3点。今年度は今回を含めて全2回の実施を計画している。次回は3月18日。

広域避難者支援ミーティング in 九州について

2月26日、博多で広域避難者支援ミーティング in 九州をセミクロード形式で開催した。40名27団体の参加。

九州の当事者団体は、所謂NPOや市民活動団体ではないことから、活動のノウハウを持っていない。共同募金会のボラサポも知らない、という団体がまだまだある。避難者のニーズの多様化、支援法についての認知や理解の不足、避難当時に反原発活動のグループに振り回されたおかげで行政や地域市民との関係性が築きにくいなどの特徴も持っている。

今回開催したミーティングでは、そのような課題を九州内で共有できた良い機会になったと考えている。

今後の活動・イベントのスケジュールについて

現地会議については、3月8日に釜石市合同庁舎、3月12日にいわき市のラ
トブ6階、3月21日に石巻専修大学での開催を予定している。

広域避難者支援ミーティングについては、3月24日にin東京を飯田橋、3月
25日にin北信越を新潟で開催予定。北信越はクローズド開催となる。

周年事業については、東北応援ビレッジを3月29日と30日の2日間の日程
で、夕留で開催予定。

【議題2】検討事項

事項1. 広域避難者支援ミーティング in 東京について

(出席者A) :

東京ミーティングは、昨年度、首都圏で年度内にやりたいと昨夏から話をし
ていた。それにあたって、既に活動している団体の方々の活動現場に足を運んで、
意見交換をさせていただいた。昨冬には、東京ボランティア市民活動センター、
さわやか福祉財団、日本財団、震災がつなぐ全国ネットワークのROADプロ
ジェクトなどと意見交換して、具体的なプログラムをつくってこういうことで
動き出した。

当初、東京はいろんな団体が活動していて、ごっちゃ混ぜによんでしまうと論
点がぶれる可能性があるという話を聴いて、セミクローズドでやろうか、とい
う案もあったが、ここにきて自主グループの方々を中心に声掛けをすることに
した。

テーマ1では、既存の4組の団体の方々に、どのようなニーズがあるかとい
うのを中心に、あまり活動報告にならない程度に、今後の取り組みの計画など
をお話していただこうと思っている。テーマ2は、弁護士さん、中央共同募
金会さんからお話をいただこうと考えている。テーマ3では、今後の支援の
あり方を軸に、いわゆる専門家と呼ばれるかたがたと、地域でサロンをやっ
ているかたがたの連携などが図れればと考えている。

(事務局A) :

これまでの広域ミーティングは、平日開催だったが、今回は初めて日曜日に設
定した。そういう意味では、実験的な開催になる。キャパはだいたい150名。

積極的にいろんな方に声掛けをしていく。

(出席者A) :

できれば、被災地支援をしていた東京の NGO の方に、東京でもやってみませんかという提案をしたいと思っている。NGO の方々が地域での防災活動に関心を持っておられるということなので、それも窓口にしなから地域のかたがたと一緒に活動をする足がかりになればいいかな、と思っている。

(出席者B) :

この活動は長期戦になる。だから行政だけではなくて、社協のようにやるのであれば、社協も呼びかけた方がいい。何ができるとか、その問題意識があるとかないとか。社協ごとに温度差があるとは思いますが、そこは特に、その後のサービスの関係、福祉的なサービスの関係でも、もしかしたら接点が生まれる可能性もある。

(事務局A) :

長期戦を金額的な面で考えると、20 万から 30 万円あれば続けられる団体も多い。100 万円くらいになると使い切れない。つまり、20 万や 30 万円程度がないために足が止まる、動けなくなっているというのが現状。

省庁の動きは、支援法の基本方針が決まるまでは、既存のメニューの中で見られるものは見ていく、つないでいく、というような話のようだ。とりあえず今をしのぐ、というのがこの頃の雰囲気。一方で、基本方針の決定が遅延した場合に、その間にどういう支援の枠組みがありえるかという課題もあり、それには募金、助成金関連も非常に重要になってくる。

(出席者B) :

JCN としては全国に相談窓口置きましょう、支援センターを置きましょうという提案を随分してきたんですが、それもまだ不透明、ようやく動きが見えてきたなという感じ。

(出席者C) :

東京でも孤独死が顕在化したが、横のつながりがある人達で集まっているとコミュニケーションをとっている人たちは良いと思うが、その輪に入っていない人たちはまだたくさんいる。東京ミーティングでは、そういう繊細な話題まで踏み込むのか。また、強制避難と自主避難の温度差、強制避難の中でも温

度差がある中で、すべて一緒にして語ってはいけない部分があると思っているが、今回はそれをどう整理をして取り組もうとしているのか。

(出席者A) :

当事者の現状を理解する、というよりも、支援団体がつながっていくっていうことを目的にしたいと考えている。避難者間の温度差は、デリケートなところでもあるので、そこを全面に出してしまうと、原発のこともそうだが、民間支援そのものの趣旨がずれるという危惧を持っている。

自主グループの中でも、避難先で組織化されたグループと、避難元で構成しているグループもあったりする。広島ミーティングでは、自主グループのかたがたがデリケートな話題も提供してくださったが、東京の現状では、まだあまり踏み込めないと感じている。

(事務局A) :

九州の場合も、それぞれの立場によって求めるものが全然違ったり、分断がいろいろ進んでいたりする、という意識が支援者にもあった。今回の東京ミーティングは、そういう意識のずれも前提にした上で、広域避難者を支援することが必要だという共通認識と、今後どれだけ協力してやっていけるかというところに力点を置きたい。

(出席者A) :

東京都社協の高齢者等孤立防止支援事業では、東京に避難されている方々も対象にしていて、現在 19 の市区町村社協がそれを引き受け、主にサロン活動を中心にしながら地域の中で実施している。

市区町村社協の中には、手を挙げたところもあればないところもあるが、この事業の実施にあたっては、いろんなどころと手を組んで事業を進めている社協と、単体で実施している社協もある。共通しているのは、他者とどうやって手を組めばよいのかわからない、とおっしゃる方が多いこと。東京には手を結びにくい団体も一部にあったり、過去の失敗で外部団体とは手を結ぶことに今日非反応があったり。複雑な事情も折り込みながら、地域の中で新たに手を挙げてくれる団体とか、そこで集まりながら、あなたのところは結構良さそうだねなんていう、そういうのができる、つながっていけるような場にしていきたいと思っている。

(出席者D) :

東京都は、避難者の住所を把握していて、避難者へは絶えず情報を届けている。ただ、私達はつながりたくない、自分たちが避難してきたことを知られたくない、と思っている人たちの割合も東京は高い。7割くらいが触れてほしくないという回答をしている調査結果もある。そういう状況でも避難者に届くための手法やパワーがないとやっていけない。

事項2. 次年度計画について

(事務局B) :

次年度計画は、4月の第二週にご提案し、世話団体から意見聴取したい。総会は、5月の連休明けの第三週、四週あたりで行いたいが、そのスケジュールで行くと、4月に第二週に世話団体を開催、5月に第三週あたりでもう一度開催し、総会前の確認としたいがいかがか。

(出席者E) :

年度明けの4月1日には事務局がないというわけにはいかない。計画立案が間に合わないということであれば、今年度事業の継続を基本に来年度も事業を進めていく、という了解を一旦ここで取ったほうがよい。細かい詳細および変更点に関しては総会までに作成する。継続ということだけでも、確認をした方がよい。

(事務局B) :

では、そのご提案どおり、4月、5月については今年度事業の継続ということでさせていただきたいが、よろしいか。

(異議なしの声)

事項3. 東北応援ビレッジについて

(事務局B) :

東北応援ビレッジについて、初めて企画を耳にされる方もいらっしゃる。お手元の資料に開催概要とチラシを確認していただきたい。

既にメーリングリスト等で告知済みだが、現段階で29日と30日の二日間で

実施する。時間は 11 時から、一日目は夜まで。二日目の 30 日は 18 時まで。
場所は、汐留駅シオサイト地下歩行者道内で、日本テレビの前のあたり。内容は、東北の手作り品や産物の販売と被災地の伝統芸能の演奏演技がメイン。

主催は JCN と東北応援ビレッジの実行委員会の連名、共催は、災害ボランティア支援活動支援プロジェクト会議。後援は、ワンパーセントクラブさん、復興庁、広がれボランティアの輪連絡会議。

出展者、出演者は、現在リストアップ中で、お声かけを始めている段階。関係する団体の中でリストに入れたほうが良い団体があれば、推薦をいただきたい。出展者、出演者の交通費は、1 団体あたり県単位で一定額を支払えるよう調整中だが、まだ決定ではない。

(出席者E) :

声かけリストはメーリングリストなどで共有したほうがよい。

(事務局B) :

当日の運営スタッフについても、協力をお願いしたい。運営スタッフは常時 30 名が必要となる。

事項 4. JCN 発災から 2 年メッセージについて

(出席者B) :

震災発生から半年後と一年後に、JCN としてメッセージを出してきたが、2 年後としてのメッセージを出そうと考えている。お手元の原稿を確認いただきたい。内容は、まだまだ忘れてもらっては困る現実があること、原発事故による放射能問題はまだ終わっていないということ、できれば応援しようじゃないかということなど、ボランティアに対する呼びかけ文となっている。いかがか。

(異議なしの声)

5. その他

次回の世話団体会は、後日事務局が調整する。